

文化財学

を当時の日記や手紙など文字
き明かしていく学問を文献史
います。僕の研究は文化財学
領域で、現地に赴いて建築物
や現存する古建築を調べたり、
写真などから建築物の構造を
たりしながら、歴史をひもと
ます。子どものときから歴史
だったことが、この研究に進
かけになりました。

から近世にかけての大名邸や
築かれた天守、社寺建築の構
いて考察を行い、建物が語る
な深淵や背景、為政者の思い
迫っています。

人の城郭建築

信長の安土城、豊臣秀吉の大
徳川家の江戸城について、詳
元図を作成し、同じスケール

残されていた1階の平面図などをそ
れぞれ考察しながら、併せて文献資
料を読解し、復元図を引きました。

信長については革命家の一面が
フューチャーされがちですが、実は
古い伝統も大切にしていた側面も、
復元したことで見えてきました。安
土城の天守は斬新ですが、御殿は室
町時代の将軍家の伝統的な手法に
のっとっていたからです。

秀吉については、壁に施したきら
びやかな彫刻などから、自らの権力
と財力を見せつけることで、「秀吉に
はかなわない」ことを他の大名にみせ
つけるために、派手な大坂城を建立
したことがうかがえました。徳川3
代将軍の家光が建立した江戸城は、
安土城や大坂城と比べサイズが大き
く、圧倒的な存在感で大名たちを威
圧していたことが考察できました。

自分の研究成果が社会に還元される
のはうれしい限りですが、半面、指
定文化財であっても、価値が周知さ
れないまま朽ちていく建造物が多い
のも事実です。

こうしたことを踏まえ、地域の文
化財を学生と一緒に調査研究し、そ
の価値を実証。行政に働きかけなが
ら地域の文化財の保全につなげてい
くことに、今後力を注ぎたいと思っ
ています。地域の建造物でいうと、
今、小早川隆景が建てた三原城の価
値に注目、研究を進めています。御
殿の姿が面白く、安土桃山時代の建
物の歴史観がひっくり返るものと思
っています。

視野を閉じ過ぎない

研究で心掛けていることです。文
化財学は文系・理系双方のさまざま
な知識が要求されます。ある側面か
らの考察に集中し過ぎると、他の情
報をシャットアウトすることにもな
ります。さまざまな角度から俯瞰す
ることは意識しています。